

シンポジウム「木と竹を住まいに活かす」

言うまでもなく、木と竹は古くから日本の住宅に使用されてきました。生活スタイルの多様化が進み、和風、洋風のようなカテゴリー分けが難しくなってきた今日、これらの材料を現代の内装に活かすために、関連メーカー各社はデザインや性能に様々な工夫を凝らした製品を世に送り出していることは周知の通りです。一方、住まい手の本物志向・自然志向を形にするために、量産される建材とは一線を画した木材や竹材の使い方を模索する建築家も少なくありません。さらに、木や竹の物性とそれらが人に及ぼす影響の科学的な究明を試みる研究者がいます。

メーカー、建築家そして研究者が目指すところは、木や竹の活用による住まいの居住性向上であることは間違ひありません。しかし、その実現のための課題設定やアプローチの仕方には、三者の間にそれなりのギャップが存在し、問題の本質がわかりにくくなっている場合があるようです。例えば、竹材の内装利用に関して、一般に流布している竹のイメージをどこまで製品に重ねてよいのでしょうか。

そこで、日本木材学会居住性研究会と(社)日本木材加工技術協会木質仕上げ部会では、メーカー・建築家・研究者が集い、三者がそれぞれの役割を確認しながら、「木と竹を活用」して「環境と共生する安全で快適な居住環境」を「人の評価軸」に沿って実現するための課題について、意見交換を行う場を設定しました。ご関心をお持ちの各位の多数のご参加をお待ちしております。

日時 平成19年11月14日(水)13:00~17:30

会場 学士会分館(東京都文京区本郷7-3-1(東京大学構内赤門隣り)、営団丸の内線・都営大江戸線本郷三丁目駅下車、徒歩5分)

主催 日本木材学会居住性研究会・(社)日本木材加工技術協会木質仕上げ部会

後援 (社)東京建築士会(CPD認定)

会費 主催・後援団体会員3,000円、非会員4,000円、学生1,000円(当日徴収)

プログラム

【第1部】木と竹の内装仕上げの現状と可能性(13:00~14:00)

- ・木の家に住む魅力 (趙 海光 (株)ぶらんにじゅういち)
- ・ハウスメーカーの視点から (箕浦正広 住友林業(株))
- ・木質内装仕上げについて - 木フローリングを中心として - (古田英之 中部フローリング(株))
- ・竹の内装仕上げについて - 竹フローリングを中心として - (桜井紀代美 (有)創竹)

【第2部】木質内装と竹材利用に関する研究(14:15~15:45)

- ・建築材料としての竹材利用 - その可能性と課題 - (渋沢龍也 森林総合研究所複合材料研究領域)
- ・木質内装の視覚特性 (仲村匡司 京都大学大学院農学研究科)
- ・教育環境における木質内装の快適性評価 (小林大介 横浜国立大学教育人間科学部)

【第3部】パネルディスカッション「木と竹を住まいに活かす」(16:00~17:30)

コーディネーター 信田 聰(東京大学大学院農学生命科学研究科)

パネラー 趙 海光, 箕浦正広, 古田英之, 桜井紀代美

渋沢龍也, 仲村匡司, 小林大介 (以上敬称略, 順不同)

参加申込 参加者氏名, 所属, 連絡先(住所, 電話番号, メールアドレスなど), 会員種別を記した電子メールまたはファックスを, 下記連絡先までお送りください。

連絡先: 仲村匡司(京都大学大学院農学研究科森林科学専攻)

E-mail nakamasa@kais.kyoto-u.ac.jp, Fax 075-753-6300